

「給食☆調べ隊！」【探究課題：学校給食に携わる人々と取組】(22時間)

授業者：鎌田 尚吾

1 社会的背景(現状と課題)

子供たちにとって、現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力として「健康・安全・食に関する力」が示されたⁱ。社会の変化に伴う子供の食を取り巻く状況の変化に対応し、学校における食育の一層の推進を図ることが求められ、学級担任による給食指導、栄養教諭を中心とした食の指導が行われている。その指針として、文部科学省(2018)は食に関する指導の6つの目標、内容の例示をしているⁱⁱが、和井田ら(2020)ⁱⁱⁱは、学習者側が給食から何を学んでいるのか等を詳細に調べた実践や豊かな人間性に関する教育効果に着目した実践の少なさを指摘している。

内閣府(2006)は、子供の「食に対する感謝の気持ち」が薄れている^{iv}ことを示唆し、飯島(2005)^vは、教師は作ってくれた人や生産者に感謝をして食べるという点を強調することが多いとしている。本図(2007)^{vi}は、「学校給食は学校の食の中心にあり、校内均一化のもとで機能している」と述べ、栄養教諭による指導が行われているものの、児童の家庭生活も関係することから学習内容や指導に配慮が必要な場合が多いことを示唆し、十分に指導しづらい面もあると指摘している。

そのため、探究的な学習^{vii}によって子供自身が「給食を作る人の思い」に触れながら、食への関心をもち、「食に対する感謝」を養うことをねらい、探究課題を【学校給食に携わる人々と取組】と設定した。

和井田ら(2020)は、給食への興味・関心を高めるためのアプローチとして、「食べ物への理解」と「給食の作り手やプロセスに関する理解」を示唆している。今回は給食の作り手やプロセスに焦点を当てる。

2 本単元の「新たな価値を創造する力」につながる資質・能力

「食への感謝」をもつために「給食を作る人の思い」に触れ、自ら問題解決を繰り返しながら、好奇心を育むことを大切にす。この資質・能力は、探究的な学習のみならず、「新たな価値を創造する力」の重要要素である。子供の「もっとこんなことも知りたい!」「他にもこんなことがあるんじゃないかな?」など、色々なことを広く知りたいと思う「拡散的好奇心」とともに、「本当にそうなのだろうか?」「どうしてそう思っているのだろうか?」など一つの目的を持ってより深く物事を掘り下げる「特殊的好奇心」(Berlyne1960^{viii}, 波多野他 1971^{ix})を養う。

また、Kashdan (2018)^xが提唱する好奇心(欠落感:自分が知らないことを知る, ストレス耐性:新たなことを取り入れる, 社会的好奇心:他者の思考や行動)を視点に、「給食を作る人の思いへの理解(学び)」、「給食を作る人の思いの取り入れ(役立ち)」、「給食を作る人の思いへの思い(喜び)」をもつ子供の姿(図1)を目指す。

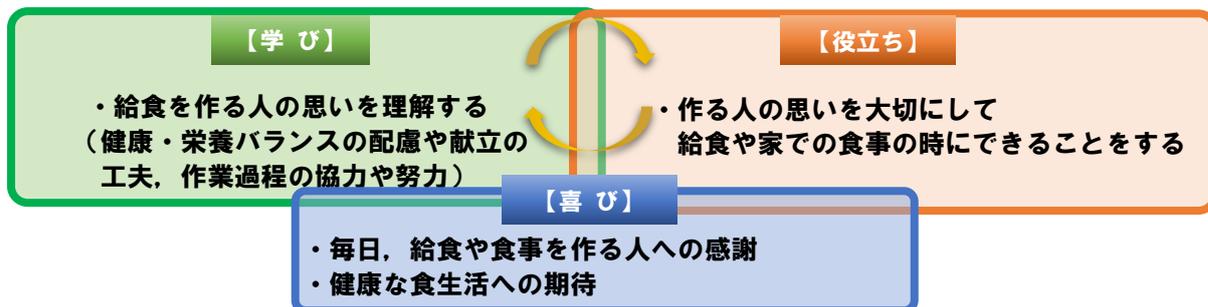


図1 目指す子供の姿

3 研究仮説

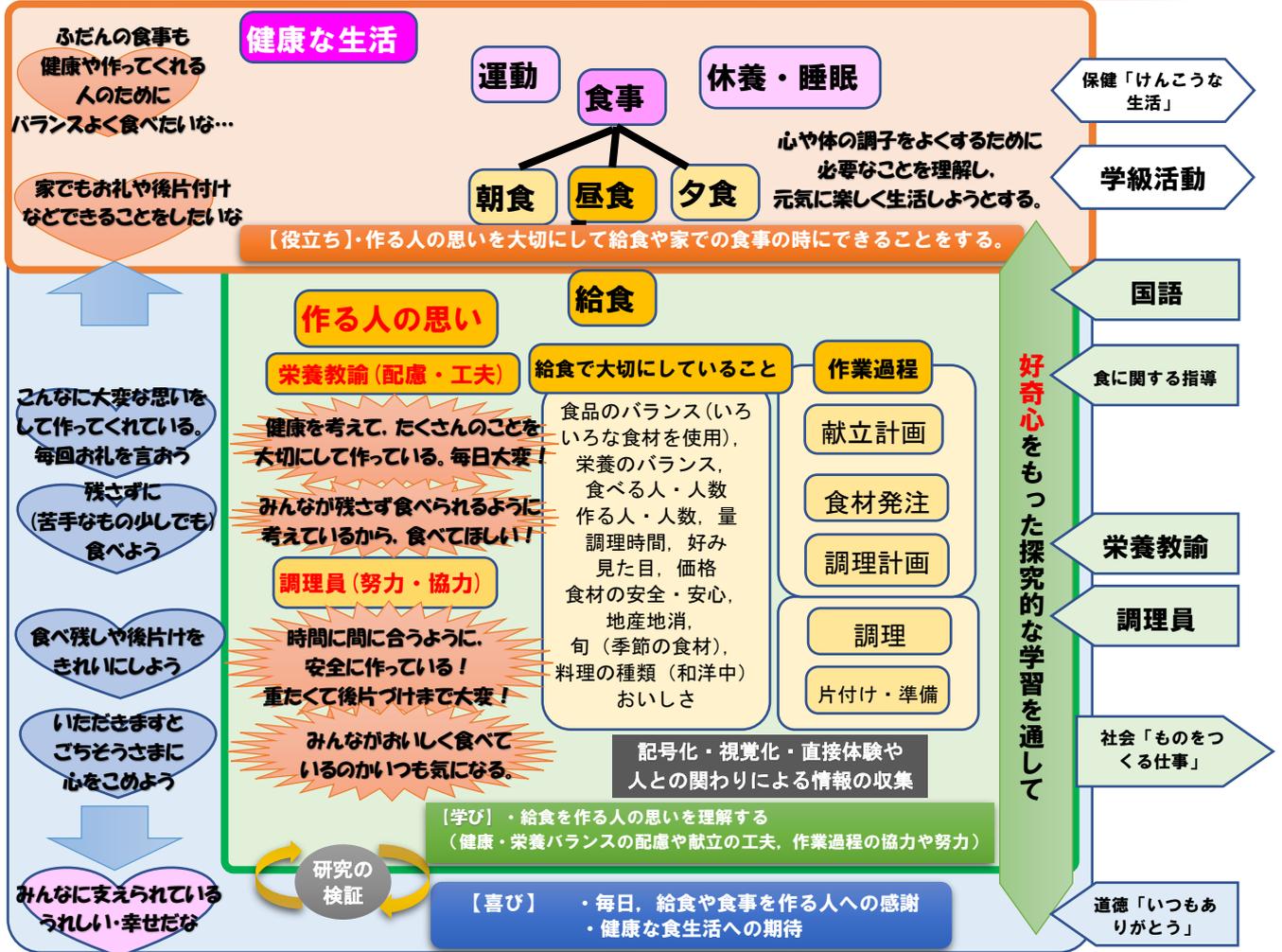
好奇心をもって「給食を作る人の思い」に迫っていく探究的な学習によって、食に対する感謝の思いをもち、これからの食への行動につなげていくことができると考えた。

子供が気付きや疑問を発展的に繰り返しながら、「給食の作り方」から「給食を作る人の思い」へと関心を向けていくことをねらい、記号化(図書テキスト)、視覚化(360度カメラ映像や写真)、直接体験(見学)、人との関わり(栄養教諭や調理員さんのお話)の情報の収集場面を設定する。

研究
仮説

記号化、視覚化、直接体験や人との関わりによる情報の収集場面を設定することで、「給食を作る人」への関心を高め、「食に対する感謝」の思いを深めることができる。

4 研究のデザイン



5 本単元の目標

栄養教諭や調理員の給食に関する取組を情報収集したり、取組の意味を考えたりすることを通して、栄養や健康を支える人たちの思いに触れ、給食や日常的な食へ感謝し、健康な食生活への期待をもって好き嫌いなく栄養バランスを意識した健康な食生活を送ろうとする。

6 本単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>【栄養教諭の配慮や工夫の理解】 給食を決める栄養教諭が栄養バランスや食べる楽しさに配慮しながら、児童が給食を完食できるように、献立や食材の選定、見栄え、味を工夫していることを理解している。</p> <p>【調理員の努力や協力の理解】 調理員が重い調理器具を使ったり、時間に間に合うように効率的に協力したりしながら給食を作っていることを理解している。</p> <p>【情報の収集】 調査したり、見学したりインタビューしたりしながら、給食の食材や献立の理由、調理員が給食を作る過程や苦勞を調べることができる。</p> <p>* 発話記録・学習記録</p>	<p>【課題の設定・情報の整理】 給食や作る人に関する問いを見いだして、自分で課題を立てたり、情報を整理して分析したり、まとめたりしている。</p> <p>【健康な食生活への判断】 栄養バランスや作る人の思いを大切にしたり、健康に必要な食生活を考えたりすることを通して、栄養を意識した食事について考えることができる。</p> <p>* 発話記録・学習記録</p>	<p>【給食への関心】 毎日の給食について関心をもちながら、自らの学習を進めようとしている。</p> <p>【健康な食生活への期待】 毎日の給食を作る人や栄養バランスへの関心をもって探究的な学習に取り組みながら、給食時の食べ方や、食生活を見つめ直そうとしている。</p> <p>【作ってくれる人への感謝】 毎日の給食や食事、作る人のために、あいさつで感謝の気持ちを伝えたり、できるだけたくさん食べたり、食事後の食べ残しや食器の片づけに気を付けたりして生活しようとしている。</p> <p>* 発話記録・学習記録・質問紙</p>

7 本単元の構成（全22時）

本単元では、学校給食は多くの人々の苦労や努力に支えられていることを子供が理解することを目指す。

そのために、栄養教諭や調理員からの話を聞いたり、給食室を見学したりしながら必要な情報を収集する活動を行う。また、個人による整理や振り返りや友達との交流を通して、給食作業過程とともに、携わる人々の思いに迫っていく。

教師も35人めの探究者として、子供とともに活動に取り組んだり、疑問や考えを提示したりする。

保健（養護教諭による保健指導も含めて）や学級活動（栄養教諭による食の指導も含めて）の学習を通して、栄養や健康についての意識向上を図る。道徳科（感謝）での学びを生かしながら、給食を作る人への感謝の気持ちを養うことを目指す。そして、「できるだけ残さずに食べて食事の片付けもきれいにしよう」など、学びを役立てながら、喜びを感じる子供の育成を目指し、本単元を下記のように構成する。

時	○ 学習活動	★教師の関わり	評価
※	○ 保健「けんこうな生活」の学習で、健康な生活の3要素(食事、運動、休養・睡眠)を理解したり、自分の生活リズムをチェックしたりする。		
1	○ 学校給食に関する情報や思いを交流し、給食への関心を高める。 給食☆調べ隊！～自分のけんこうにむけて～		主 給食への関心
2～3	給食ってどんなもの？給食の「？」や発見を見つけてみよう！	★情報を収集する際には、短い言葉で必要なことを記述することができるよう情報カードを用意する。	知 情報の収集
5～6	○ 国語科「発見ノートを作ろう」における学習を生かし、毎日の学校給食を振り返り、？や発見したこと・思ったことをメモする。 ○ 給食についての考たり、発見したことやわからないことを交流する。 給食の「？」を調べてみよう！<本>	★図書を活用して調べを促す。	思 課題の設定・情報の整理
6～8	野村先生の思いを聞いてみよう！<お話> ○ 栄養教諭(野村先生)から、お話を聞き、栄養教諭の思いに触れる。 ○ 栄養教諭の思いや、給食で大切にしていることは何かを振り返る。 ○ 給食は、栄養教諭(野村先生)と一緒に調理員さんが作っていることを交流する。	★自分の学びを蓄積することができるよう、ロイロノートを活用する。	知 栄養教諭の配慮や工夫の理解 主 栄養教諭への感謝
※	○ 道徳の学習で、日常にお世話になっている人への感謝の気持ちや思いを伝えることへの大切さを考える。(教材:いつもありがとう)		思 健康な食生活への判断
9～10	給食☆調べ隊！～給食をつくる人の思い～ 調理の様子を調べてみよう！<本で・写真で>	★調理員さんの思いに対する疑問や予想を立てることができるよう、360度カメラ映像や調理室のマップを用意する。	
11～12	○ 学校給食員さんの思いを予想し、調理に関する情報を収集する中で、疑問や予想を考え、個人で蓄積したり交流したりする。 調理の様子を調べてみよう！<映像で>	★調理員さんの思いを考えたり、確かめたりすることができるよう、見学やお話を聞く場面を設定する。	知 調理員の努力や協力の理解
13～15 (本時)	調理の様子を見てみよう！<見学> ○ 調理の様子を実際に見て確かめたり、新たな疑問を見つけて、交流したりする。		主 調理員への感謝
16～17 18	調理員さんの思いを聞いてみよう！<お話> ○ 調理員さんの思いや学校給食の調理の様子を聞く。 ○ 調理員さんの思いや調理で大切にしていることは何かを振り返る。		
19	給食ってどんなもの？自分が思うこと・考えることを交流しよう！ ○ はじめの自分の思いや考えと比較し、変容を自覚する。 ○ これまでの学習をもとに、支えてくれる人への思いやこれからの自分の食生活について考えることを交流する。	★自分の考えの変容を自覚することができるよう、蓄積している情報カードを振り返るよう促す。	主 健康な食生活への期待
20～22	給食☆調べ隊！～自分のこれから～ ○ 給食や食事、健康のために必要なことや作ってくれる人への感謝を伝える方法を考え、実践する。		思 健康な食生活への判断
※	○ 保健における健康への意識や社会科「ものをつくる仕事」の学習に生かす。		

8 本時(15 / 22時)

子供は、これまでの調査活動を通して、栄養教諭は栄養バランスや食べる楽しさに配慮しながら、児童の健康面を考え、献立や食材の選定、見栄え、味を工夫していることを理解している。調理に関しては、自分の疑問や予想を立て、360度カメラの映像による確かめと新たな疑問の交流、調理室の設備や実際に調理する様子の見学を行っている。

本時では、疑問や予想に対して、わかったことや考えたことを確認し、調理員が重い調理器具を使いながらも、時間に間に合うように安全に効率的に協力したりしながら給食を作っていることの理解を促す。

また、調理員さんへの思いやもっと聞きたいことを交流して、調理員さんに聞きたいことを整理し、次時の意欲を高めていく。

本時の目標

調理員が重たい調理用具を使いながらも、時間に間に合うように安全に協力したりしながら給食を作っていることを理解するとともに感謝の思いや健康な食生活への期待を高める。

【前時まで】

調理室の設備や実際に調理する様子の見学を行っている。

○ 学習活動や子供の姿

評価

★ 教師の関わり

調理員の努力や協力の理解



調理員への感謝



次の学びへ

○ 給食室の見学の様子を振り返る。

いろいろな調理用具があったね。ふだん使うフライパンや鍋よりすごい大きかったよ。

重たいから、すごい大変そうだった。

ふしぎだったことがわかったよ！よそうと一緒に、安全にきれいにするためになんだね。

ちがうよ！給食をつくる人数は900人だよ！！全然楽でもないし！

給食をつくるのは11:30じゃない！もっと早く！！

調理の様子を見て、わかったことをたしかめよう！

○ 疑問や予想に関してわかったことを確かめる。

？	予想	わかったこと
どんな物を使っているの？	大きい炊飯器、大きな鍋など	大きい炊飯器、大きな鍋、大きなへら
一番たいへんなことは何ですか？	カレーは具材が多い。時間に間に合うようにする。	片付け。特に汚いままと時間がかかる。
給食着はいつもきていますか？	熱いとぬぐ	いつも着ている。消毒をして安全にしている。
だれが何をするのかきまっていますか？	きまっている	きまっていて協力している。人数がたりないときは大変。

○ 調理の様子を見て、思ったことを交流する。

給食員さんのおかげでおいしい給食が食べられる。給食をきれいに食べて、残りを減らして喜んでもらいたい。

自分だったら、こんなに重たくて熱いのはできないし、後片付けも大変そうだから、きれいに食べて少しでも楽にさせたい。

なかなか会えないけれど、会ったときにお礼を言いたい。いただきます・ごちそうさまに気持ちをこめたい。

自分たちがこんなことをすると、調理員さん喜んでくれるかな？わからないことや思いを聞くだけじゃなくて、自分たちの思いも聞いてもらいたい。

知・技 [調理員の努力や協力の理解]
調理員が重い調理器具を使ったり、時間に間に合うように効率的に協力したりしながら給食を作っていることを理解している。(発話記録・ワークシート)

主 【【作ってくれる人への感謝】
あいさつで感謝の気持ちを伝えたり、できるだけたくさん食べたり、食事後の食べ残しや食器の片づけに気を付けたりして生活しようとしている。(発話記録・ワークシート)

○ 調理員さんの思いを予想したり、自分が聞きたいことや伝えたいことを明確にしたりして、次時の学習の見通しをもつ。

★ これまでの学習を振り返って本時の交流活動の見通しをもつことができるよう、ICTを活用しながら子供の考えを引き出す。

★ グループでの活動に見通しをもって取り組むことができるよう、教師の疑問や予想に対する間違えた答えを提示する。

★ グループ内やグループ間で子供同士がわかったことを比較することができるよう、本当かどうか確認したり、同じ疑問の児童を提示したりする。

★ 使う調理用具が大きく重たいこと、時間に間に合うようにしていること、大変なおいしい給食を安全に協力してつくろうとしていることに関する内容を取り上げる。

★ 次の学習についてだけでなく、今後の自分の取組についても考えることができるよう、日常なかなかできていないことについても確認する。

¹ 中央教育審議会答申(2016)「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領の改善及び必要な改善策について」

¹¹ 文部科学省(2018)「食に関する指導の手引き—第二次改訂版—」

¹² 和井田結佳子ほか(2020)「学校給食が関わる教育活動の研究レビュー—2005年食育基本法成立以降に着目して—」日本家政学会誌: 71-9, pp574-588.

¹³ 内閣府(2006)「今なぜ食育なのか」平成18年版食育白書。

¹⁴ 飯島敏文(2005)『『食』の教育的契機への郷土教育論的アプローチ—経験される対象としての『食』の淘汰価値と教材化の視点』『大阪教育大学紀要第IV部門』53(2):pp.1-15.

¹⁵ 本園愛美(2007)「学校運営における「食」の意味と課題: 学校教育システムと食育の観点から」宮城教育大学紀要: 42, pp.193-203.

¹⁶ 文部科学省(2017)「学習指導要領解説総合的な学習の時間編」

¹⁷ Berlyne, D. E. (1960) Conflict, arousal and curiosity. McGraw-Hill.

¹⁸ 波多野直余夫・稲垣佳世子(1971) 発達と教育における内発的動機づけ 明治図書出版。

¹⁹ Kashdan, T. B., Stikma, M. C., Disabato, D. J., Mcknight, P. E., Bekier, J., Kaji, J., & Lazarus, R. (2018). The five-dimensional

curiosity scale: Capturing the bandwidth of curiosity and identifying four unique subgroups of curious people. Journal of Research in Personality, 73, 130-149.